

その1 播種・出芽・苗立ち

- ☑ 水が引かず播種が遅れる [対策A](#)△
- ☑ 播種時に土が練りこみ、土塊が大きく苗立ち不良 [対策A](#)△
- ☑ 播種後に水が溜まって苗立ち不良 [対策B](#)△

降雨後滞水する部分が→
苗立ち不良に



- ☑ ほ場は比較的乾いているが、苗立ちが悪い
 - ↳ 播種深が深すぎる または 浅すぎて覆土できていない
..... ほ場の均平、稲わらを広げておく、播種深を2～3cmに調整する
 - ↳ 播種後の土壌表面が固結している 播種前の耕起は最低限に

その2 生育初期～莖立ち期

- ☑ 生育初期から生育量が少なく、黄化が目立つ
 - ↳ 水が溜まって生育不良 [対策A](#)・[対策B](#)△
 - ↳ 苦土石灰を施用しておらず、土壌のpHが低い [対策C](#)△
 - ↳ 少雨で土壌が乾燥・膨軟、生育が鈍く葉色が薄い [対策D](#)・[対策E](#)△
 - ↳ 除草剤の薬害 ... 散布量・時期により薬害が発生しやすい剤に注意

排水不良ほ場の
黄化 →



左:pH5.8→
右:pH4.5



少雨が続く、
分けつが増えず→
葉色が薄い



除草剤の
薬害による →
生育停滞・黄化



- ☑ 生育初期は順調だったが、12月末～1月に下位葉の黄化が目立つ
 - ↳ 水が溜まって生育不良 [対策B](#)△
 - ↳ 早播きにより生育過剰・窒素不足に 適期播種と [対策D](#)・[対策E](#)△
 - ↳ 厚播きにより生育過剰・窒素不足に 適正播種量と [対策E](#)△

厚播きや →
過繁茂による
黄化



- ☑ 生育中期に雑草の発生が多い 適期に適切な除草剤を散布する

その3 出穂期～成熟期

- ☑ 枯熟れ症状が目立つ、または葉色の抜けが早すぎる
(出穂3週後に緑葉が3枚未満)
 - ↳ 水が溜まって生育不良 [対策A](#)・[対策B](#)△
 - ↳ 根張り不足で簡単に抜ける、倒れる [対策D](#)△
 - ↳ 肥効不足で生育不良 中間追肥の適期施用 [対策E](#)△
 - ↳ 株腐病 早播きをさける、種子消毒する、罹病株を焼却する



← 乾燥害や根張り不足、
チッソ栄養状態の不良による
枯熟れ症状

株腐病による →
枯熟れ症状(左)と
株元の病斑(右)



- ☑ 生育は問題ないが、穂数が少ない または 穂長が短い、収量が低い
..... 生育期間中の葉色を高く保つ [対策E](#)△

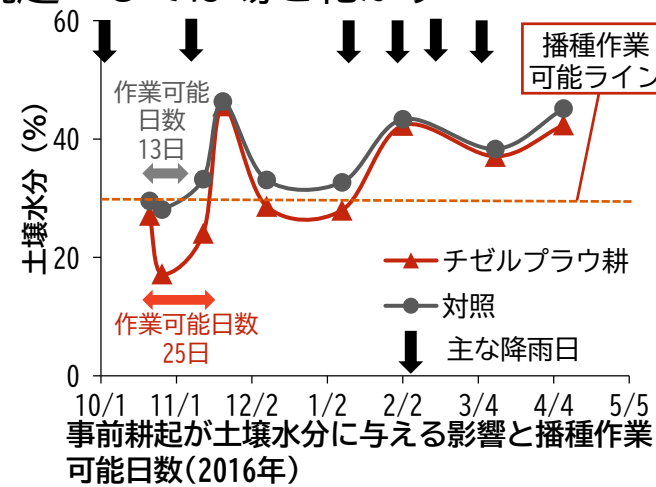
平均収量450kg/10aを目指した収量向上のための総合改善対策

A~Eを全て実施で
収量21% UP!
 (2016~18年平均
 収量503kg/10a)

A 乾きやすく播種しやすいほ場づくり

☑ **播種前**の排水対策で、適期播種できる乾きやすいほ場をつくる

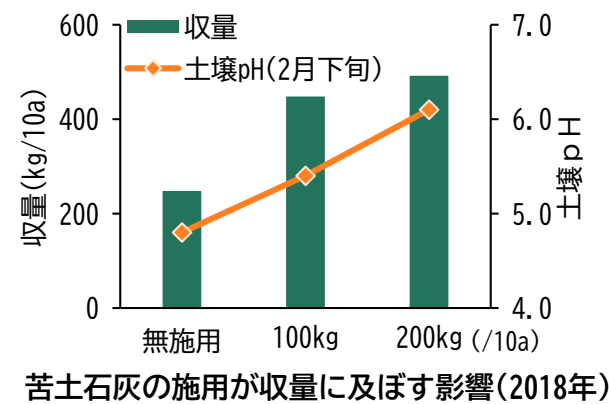
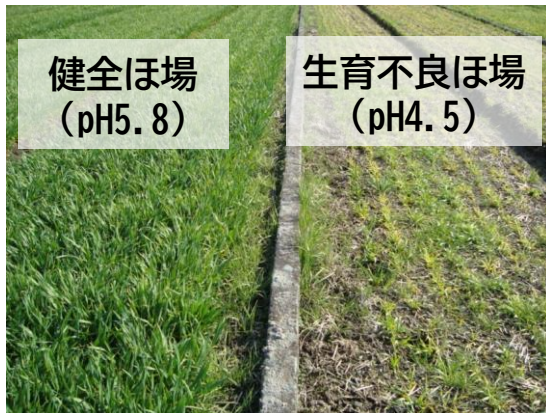
- ☐ 前作が終わりしだい、ほ場周辺に**深堀り明きよ**を施工する
- ☐ **弾丸暗きよ**は、本暗きよと直角または斜めに3~5m間隔で施工する
- ☐ 排水不良田では、**チゼルプラウ**等による荒起こしでほ場を乾かす



C 適正な土壌pHに補正する

☑ 播種前に必ず**苦土石灰(100~200kg/10a程度)**で土壌pHを改善する

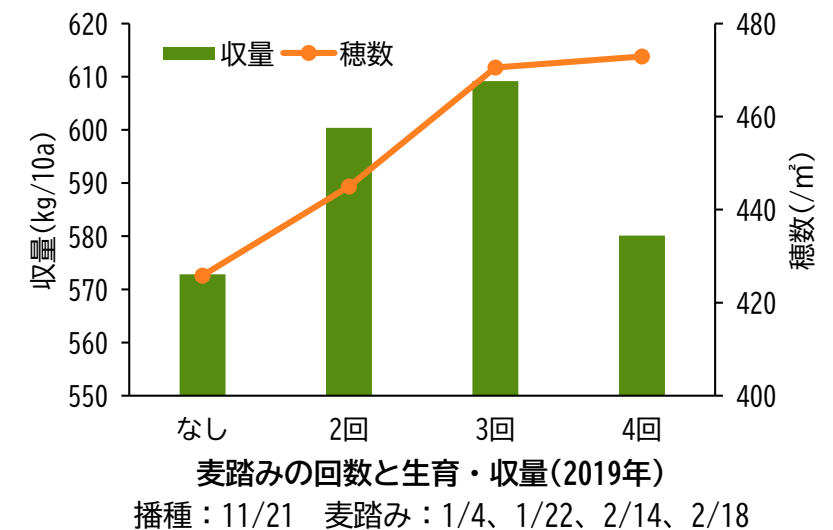
- ☐ 追肥にはpHの下がりやすい**硫酸**は使用しない。NK化成などを使用する



D 麦踏みで根量を増やし、莖数を制御する

☑ 麦踏みを3葉期以降~茎立ち前までに**1~3回**行う

- ☐ 麦踏みによって根の張りが深くなり、**土壌の過乾に強くなる**
 →登熟が良くなり、増収する



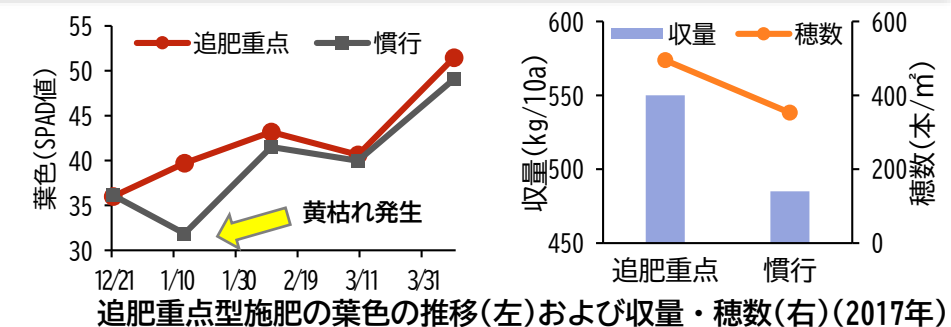
E 追肥重点型施肥で葉色を保つ

☑ **基肥量を減らして過繁茂を抑制し、葉色に応じて中間追肥を分施する** (ハルヒメボシではSPAD値40、葉色板5が目安)

- ☐ 1回目の中間追肥を12月下旬、2回目を1月下旬に施用する
- ☐ 播種量は11月中下旬播きで**8kg/10a**を厳守 (11月上旬なら6kg、12月上旬なら10kg/10a)

追肥重点型施肥の施肥体系 (N kg/10a)

施肥法	基肥	中間追肥			穂肥	計
		12/下	1/下	2/下		
慣行	7	0	2	3	12	
追肥重点	4	3	3	3	13	



生育期間中、葉色をSPAD値40以上に保つことで、無効分げつを減らし穂数・収量を確保する